

報道関係者各位

世界 COPD デー推進日本大会 2005

COPD チェックイベント ～ 1044 名が喫煙歴や肺機能、症状をチェック ～

「COPD (Chronic Obstructive Pulmonary Disease : 慢性閉塞性肺疾患)」の啓発活動を行う世界的な組織 GOLD (Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease) は、毎年 11 月中旬の水曜日の 1 日を世界 COPD デーと定めており、この日に向けて世界各国で COPD に関する認知を高める活動を行っております。日本においては、2005 年 11 月 5 日～7 日の 3 日間に、世界 COPD デー推進日本大会 2005 として、京都および東京で一般市民を対象とした COPD チェックイベントを開催しました。

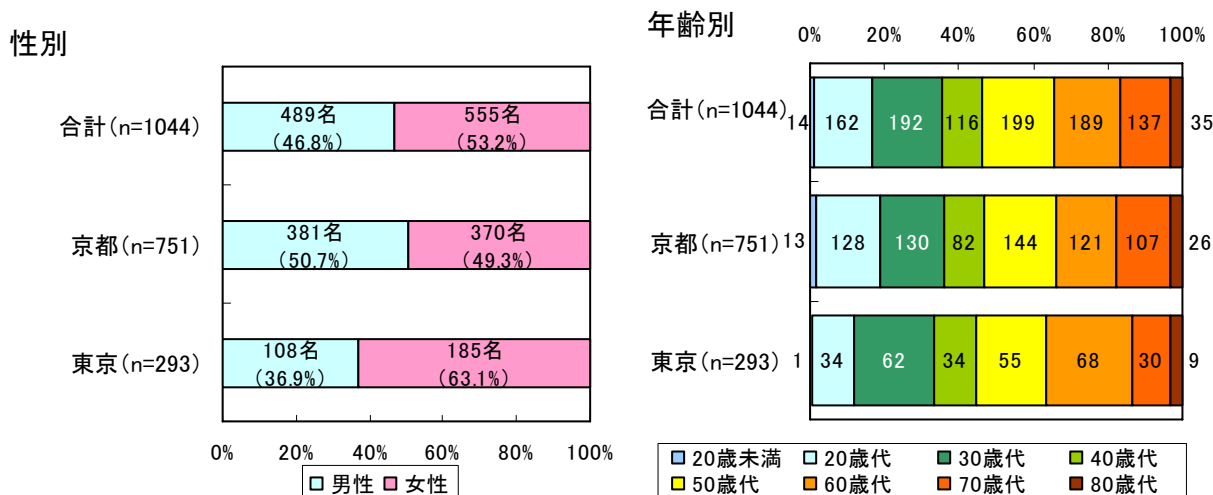
11 月 5 日、6 日に京都市・ゼスト御池河原町広場、7 日に東京・西銀座デパート前で行った COPD チェックイベントでは、1044 名が COPD 早期診断の決め手となる「スパイロ検査による肺機能チェック」に参加しました。1044 名の肺機能検査結果を以下のようにまとめましたので、ご報告いたします。

スパイロ検査で 1 秒率が 70%未満の場合、COPD などの閉塞性障害の可能性があります。

＜結果概要＞

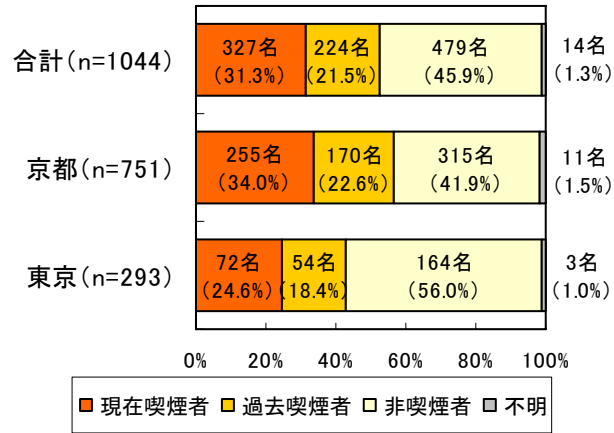
一般市民 1044 名の肺機能チェック結果

- 参加者の内訳は、男性 489 名(46.8%)、女性 555 名(53.2%)であった。
- 年齢層は 20 歳未満～80 代と幅広く、20～60 代が 82%と大部分を占めた。



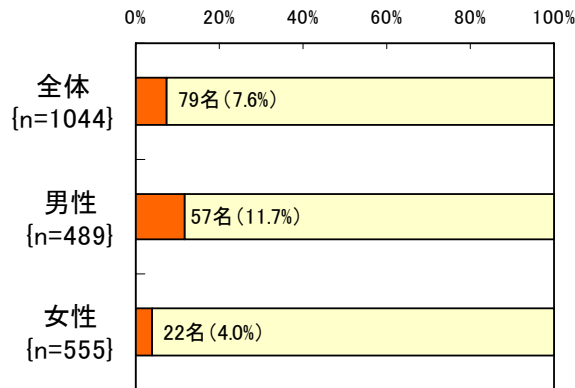
- 参加者の喫煙歴を尋ねたところ、現在喫煙者 327/1044 (31.3%)、過去喫煙者 224/1044 名 (21.5%)、非喫煙者 479/1044 名 (45.9%)、無回答 14/1044 名 (1.3%) であった。

喫煙歴

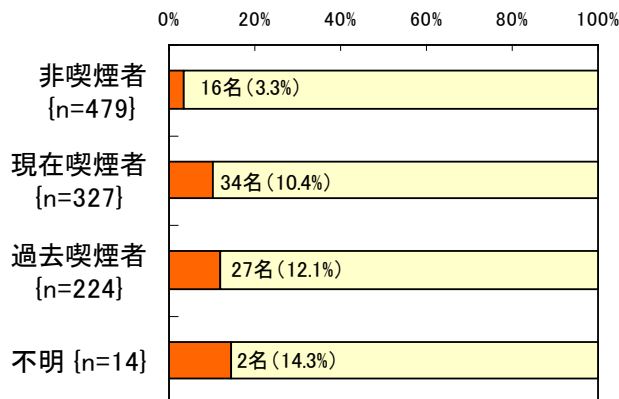


- スパイロ検査で1秒率が70%未満であった人 (COPD など閉塞性換気障害の疑いがある人) は、全体で 79/1044 名 (7.6%)、男性 57/489 名 (11.7%)、女性 22/555 名 (4.0%) であった。
- 喫煙歴別にみると、スパイロ検査で1秒率が70%未満であった人は非喫煙者 16/479 名 (3.3%)、現在喫煙者 34/327 名 (10.4%)、過去喫煙者 27/224 名 (12.1%) と、過去喫煙者でその割合が高かった。

1秒率70%未満(性別)

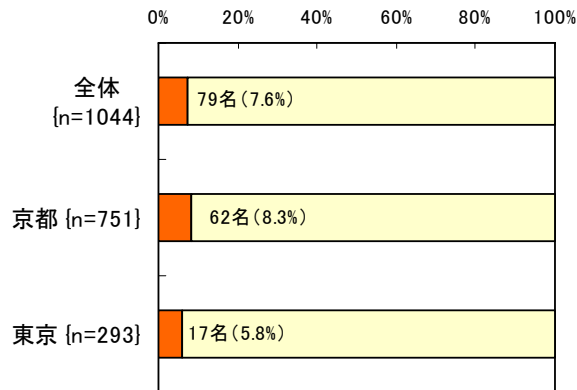


1秒率70%未満(喫煙歴別)



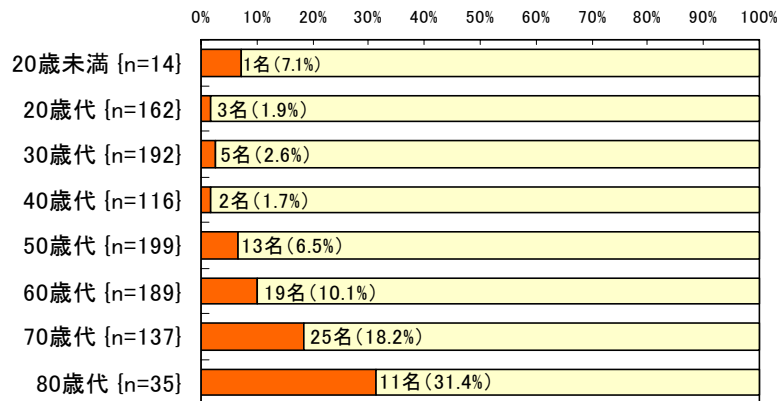
- 1 秒率 70%未満の人の割合を地域別にみると、京都では 62/751 名（8.3%）、東京では 17/293 名（5.8%）と京都の方がやや高かった。これは、京都会場の方が喫煙経験者の割合が高いことを反映しているものと考えられた。

1秒率70%未満(地域別)

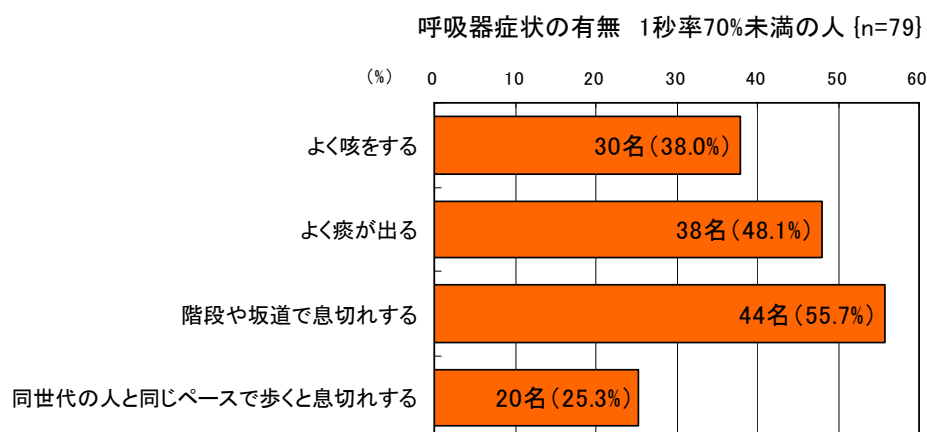
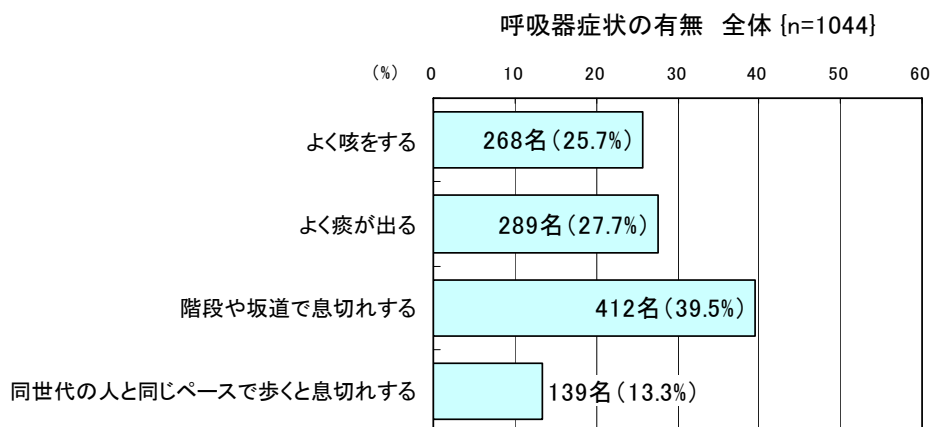


- 1 秒率 70%未満の 79 名を年齢別にみると、年齢が高くなるほどその割合が高かった。

1秒率70%未満(年齢別)



- 参加者に呼吸器症状の有無を尋ねたところ、症状があると答えた人は「よく咳をする」25.7%、「よく痰が出る」27.7%、「階段や坂道で息切れする」39.5%、「同世代の人と同じペースで歩くと息切れする」13.3%であった。COPDの初期症状であるこれらの症状は、スパイロ検査で1秒率70%未満の人に限ると、「よく咳をする」38.0%、「よく痰が出る」48.1%、「階段や坂道で息切れする」55.7%、「同世代の人と同じペースで歩くと息切れする」25.3%と、いずれにおいても症状を有する割合が高かった。



- 2003年から世界COPDデー推進日本大会として実施してきた一般市民のスパイロ検査による肺機能チェックの結果をまとめて示す。毎年、1秒率70%未満の人が、8%前後見つかっている。通常的生活を送る健康な人たちの中にも、肺機能が低下している人が一定の割合いることを示す興味深い結果であり、COPDの疾病啓発と、スクリーニングとしてのスパイロ検査の普及が望まれる。

	2003年(東京)	2004年(東京)	2005年(東京・京都)
1秒率70%未満の人の割合	7.3% (33名/452名)	8.2% (53名/643名)	7.6% (79名/1044名)

☞ COPD(Chronic Obstructive Pulmonary Disease:慢性閉塞性肺疾患)とは

喫煙が主な原因とされる肺の生活習慣病。気管支の炎症や肺の気流閉塞により呼吸困難を起こす慢性の呼吸器疾患で、息切れ、咳、喘鳴、痰の増加が特徴的な症状です。日本では530万人以上の患者がいると推計されていますが、実際に治療を受けているのは約21万人に過ぎず、残り95%は未治療のまま病気を進行させてしまっている可能性があります。高齢化や喫煙開始の低年齢化に伴い、今後患者数が増加すると推定されています。

またWHO(世界保健機関)の調査によると、COPDは2020年に死亡原因の第3位になると予測されており、世界規模での早急な対応が迫られている重篤な疾患の一つです。

☞ GOLD(Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease)とは

COPDに関する医療水準の向上と啓発活動を行うため、WHOとNHLBI(米国立心肺血液研究所)の呼びかけのもと、日本を含む世界50ヶ国以上の専門家が中心となり発足させた組織。2002年から、毎年11月のある1日を「世界COPDデー」に制定し、COPDの予防、早期発見・早期治療の普及を目的にさまざまな活動を展開しています。今年の世界COPDデーは、「11月16日」です。

☞世界COPDデー推進日本大会(2005年)のキーメッセージ

『COPD。みんなで知ろう、考えよう』

～日本各地の最新の研究成果・取り組みを発表～

- ・ COPDは、潜在患者数530万人以上のありふれた病気ですが治療を受けている人はわずか20万人あまりです。
- ・ COPDは重症化すると、日常生活に著しい障害をもたらす全身性の疾患です。早期発見、早期治療開始が何よりも大切です。
- ・ 階段や坂道での息切れ、慢性的な咳、痰を「年齢のせい」「タバコのせい」と見過ごさず、早めに医師に相談してください。
- ・ 40歳以上で喫煙歴のある方は、定期的にスパイロ検査を受けましょう。

■ 主催:世界COPDデー日本委員会

■ 共催:アストラゼネカ株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、日研化学株式会社、
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、ファイザー株式会社、三菱ウェルファーマ株式会社

■ 協賛:アボット ジャパン株式会社、アルタナ・ファルマ株式会社、大塚製薬株式会社、
田辺製薬株式会社、帝人ファーマ株式会社

■ 後援:東京都、京都市、日本医師会、京都府医師会、日本呼吸器学会、日本呼吸管理学会

■ 協力:チェスト株式会社

***** この件に関するお問合せは、下記までお願いします *****

2005年世界COPDデー推進日本大会事務局

株式会社エム・シー・アンド・ピー

本岡/菅原

TEL.03-3597-0170 FAX 03-3597-0171

【スパイロ体験を希望された方への質問票】

あなたの肺機能は？

—スパイロ検査説明書—

- ① 身長、性別、年齢、喫煙歴やあてはまる症状を記入して検査員のところにお持ちください。

■ 肺機能検査報告書

身長 () cm
性別 (男 ・ 女)
年齢 () 歳
喫煙歴 なし
 現在喫っている
1日()本()年間
 過去に喫っていた
1日()本()年間
禁煙した時期()歳のとき

次のような症状がある
 よく咳(セキ)をする
 よく痰(タン)が出る
 階段や坂道で息切れする
 同世代の人と同じペースで歩くと息切れする

- ② 検査員の指示にしたがってスパイロ検査を受けてください。

- ③ 検査結果について

FVC(努力性肺活量)：
息を最大限に吸ってから強く吐き出したときの息の最大量。

FEV1.0(1秒量)：
息を最大限に吸ってから強く吐き出したとき、最初の1秒間の息の量。

FEV1%(G)(1秒率)：
1秒量をFVC(努力性肺活量)で割ったもの。息の吐き出しにくさ(閉塞性障害)の指標となります。1秒率が70%未満の場合、閉塞性障害の可能性がります。

%1秒量：
項目FEV1.0のところの3つ数字のうち、一番右側(%予測値の欄)の数字が%1秒量です。あなたの1秒量が、身長、性別、年齢が同じ健康な人の正常値と比べて、どれくらいかを表すもので、COPD重症度の指標になります。

各項目の「測定値」欄の数字が、あなたの検査結果です。「予測値」は、あなたの身長・性別・年齢から予測される正常値、「%予測値」は、予測正常値に対するあなたの検査結果の割合を%で表わしたものです。

このカードに記載いただいた性別、年齢、喫煙歴、症状の有無について、および検査結果を集計したデータは、参考データとして発表させていただく予定です。個々人の記載情報や検査データを公表することはいたしません。よろしくご了解ください。